

第一生命保險 提出資料

金融審議会「市場ワーキング・グループ」(第16回)

人生100年時代における保険商品・サービス

2018年11月5日
第一生命保険株式会社



Dai-ichi Life
Holdings

人生100年時代において生命保険会社に求められる役割

■ 人生100年時代における各課題を踏まえれば、生命保険会社に求められる役割は一層拡大すると認識

想定される主な課題

- 社会保障制度の見直し
- 長生きによる老後資金の不足
- 現役世代への資産移転
- 平均寿命と健康寿命のギャップ拡大
- 認知症の増加
- 高齢者による保険手続の増加

生命保険会社に求められる主な役割

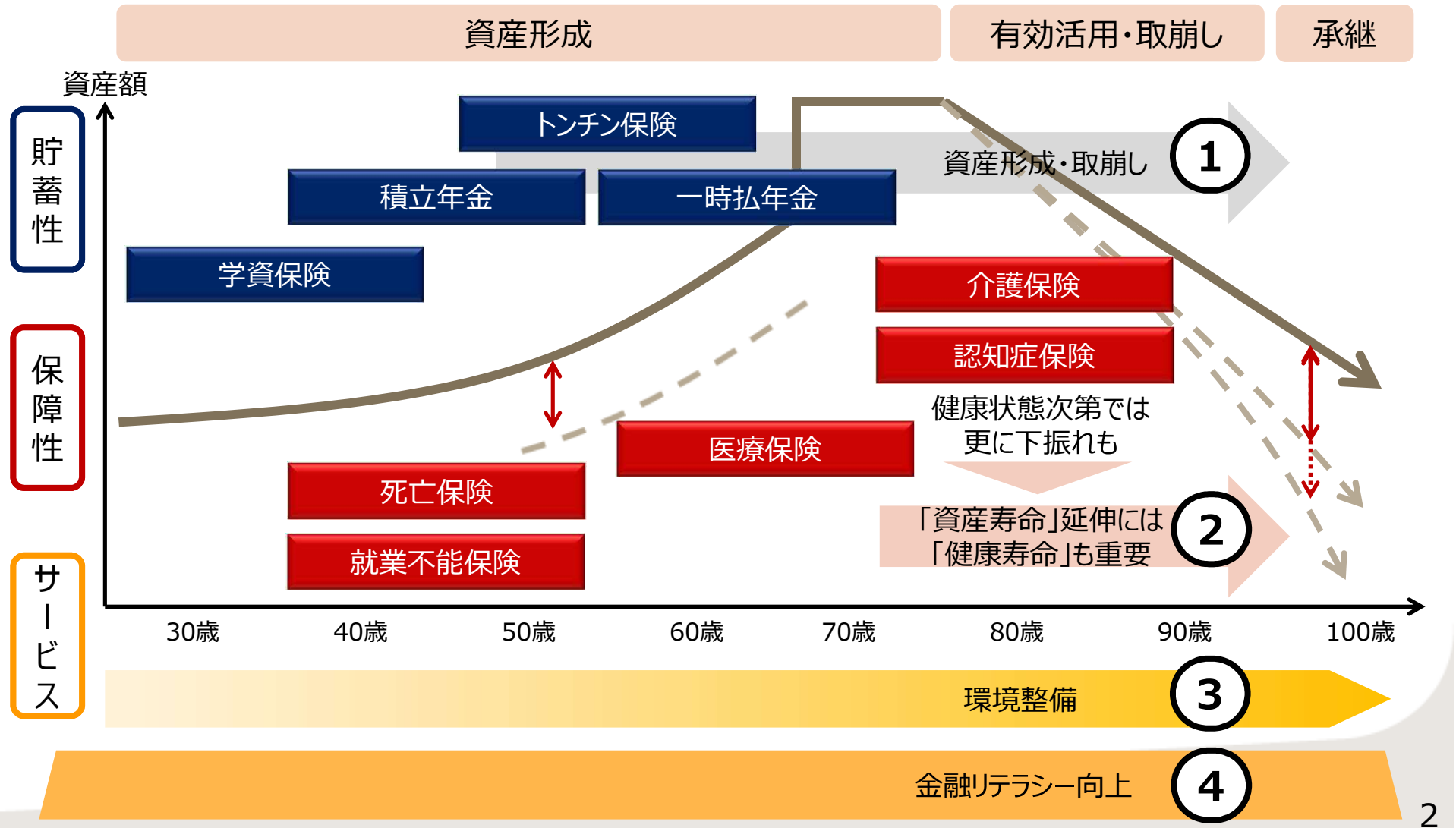
- 資産形成(殖やす)、医療・介護(備える)等の自助努力支援
[公的保障の補完]
- 資産寿命延伸
- 円滑な資産承継(つなぐ・遺す)
- 健康寿命延伸
- QOL向上に資する商品・サービス
- 意思能力・請求能力の低下に配慮した手続・サービス

□ 国民の金融リテラシー向上

一生涯の資産額の推移と保険商品・サービスとの関係（イメージ）

■ 生命保険会社は、様々な保険商品・サービスを通じて、お客さまの安定的な資産形成や暮らしをサポート

<イメージ> ※各保険商品の配置は、お客さまが加入可能な年齢を示すものではない。

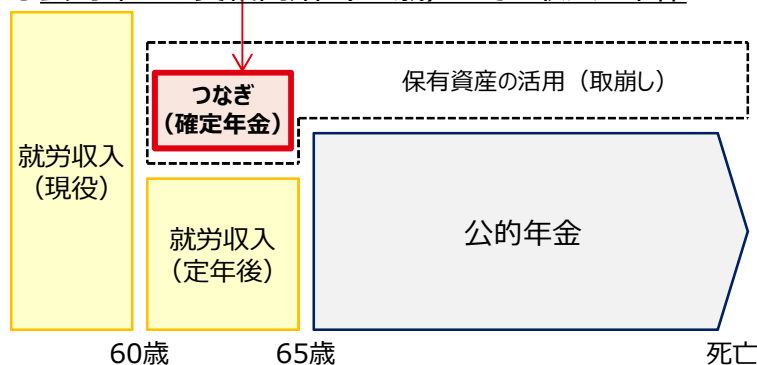


人生100年時代における個人年金保険（私的年金）

- 今後、高齢期における就労促進（定年延長等）や公的年金の受給開始時期の任意の繰下げの推進・拡充が図られていく見込み
- 私的年金においても、高齢期におけるライフコースの多様化に合わせ、受取方法を柔軟に選択できることが大事であり、また、私的年金が担う「つなぎ年金」「上乗せ年金」それぞれの役割は拡大するものと思料

「つなぎ年金」ニーズ

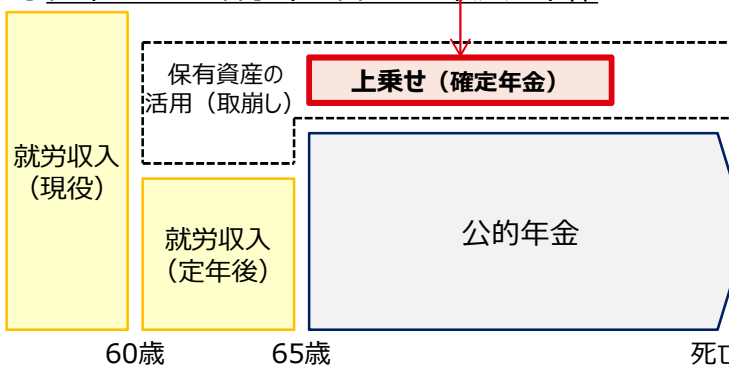
○公的年金の受給開始（65歳）までの収入を確保



これまで

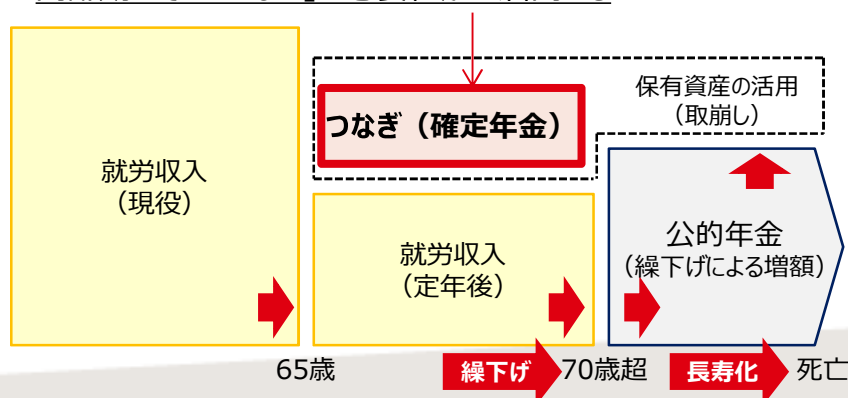
「上乗せ年金」ニーズ

○世帯ごとの生活水準に合わせた収入を確保



【老後の選択①】…70歳超までの就労+公的年金の繰下げ

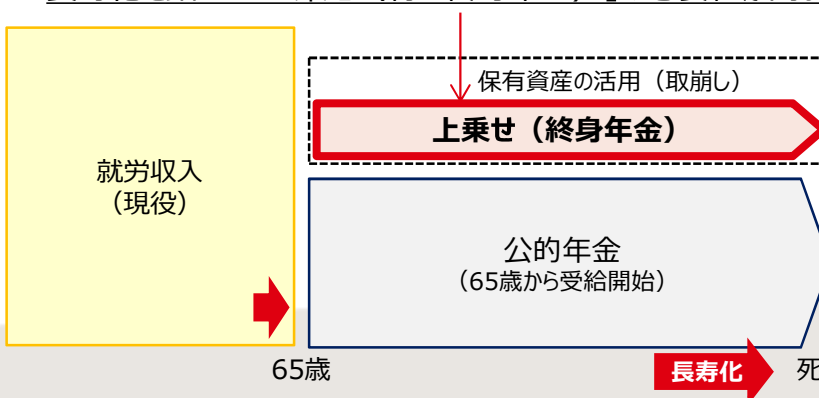
⇒高齢期までの「つなぎ」の必要性が一層高まる



将来

【老後の選択②】…健康面や価値観等に基づき、65歳でリタイア

⇒長寿化を踏まえ「上乗せ（特に終身年金）」の必要性が高まる



個人年金保険における受取時の強み

受取開始時期の選択

年金の受取開始時期は70歳以上も含め、任意の時期を設定可能
(商品によっては、加入後の繰下げも可能)

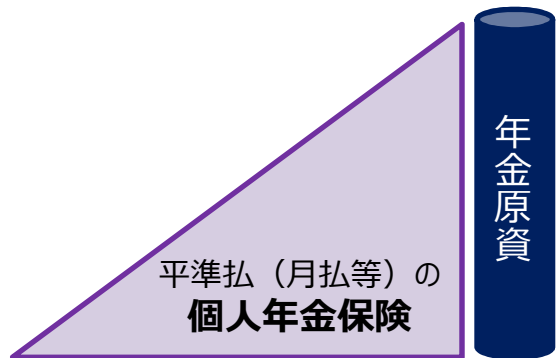
受取期間の選択

加入時だけでなく、受取開始時にも年金種類・年金受取期間を選択(変更)可能
(商品によっては、複数の組合せも可能)

定期的な取崩し

直前まで保険会社が運用し、毎年一定額の年金を給付(=定期的な取崩し)
(商品によっては、1・2か月ごと等、分割受取りも可能)

25歳等加入 ← 保険料払込期間 → 65歳等年金開始



年金受取期間

確定年金

- 5年
 - 10年
 - 15年等
- 所定の期間、生死によらず給付

⇒公的年金受給開始までのつなぎ年金や、一定期間の上乗せ年金として活用

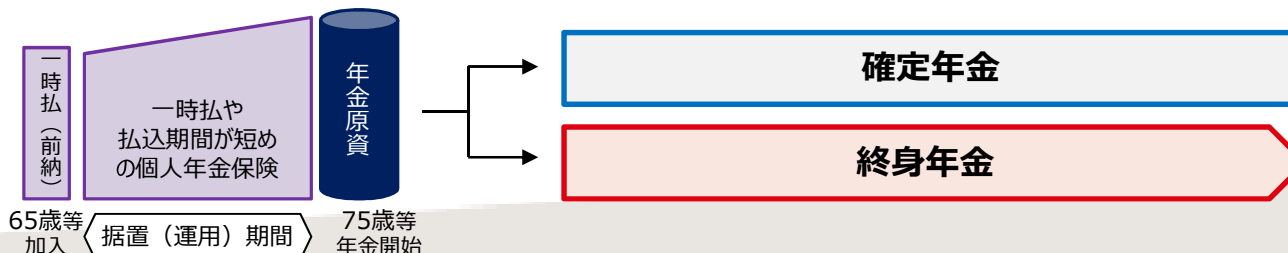
終身年金

- 当初5年間等は 以降、生存の限り一生涯給付 最低保証

⇒長生きリスクを踏まえた一生涯の上乗せ年金として活用

【参考】高齢期における個人年金保険の活用

✓退職時等のまとまった資金を活用し、一時払等で個人年金保険に加入し、より高齢期における年金ニーズに備えることも可能

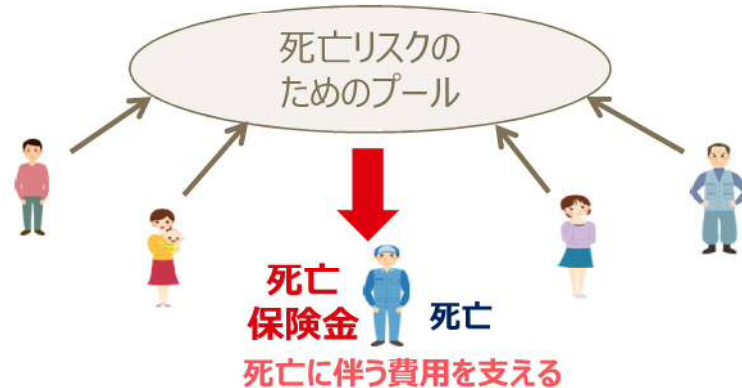


トンチン保険について

- 死亡保険が死亡に伴う費用（死亡リスク）を融通しあうのと同じく、トンチン保険（※）は人々が長く生きるための費用（長生きリスク）を相互扶助により支える仕組み

※「トンチン」とは、17世紀のイタリア人銀行家ロレンツォ・トンティ（Lorenzo Tonti）が考案した保険制度に由来すると言われる

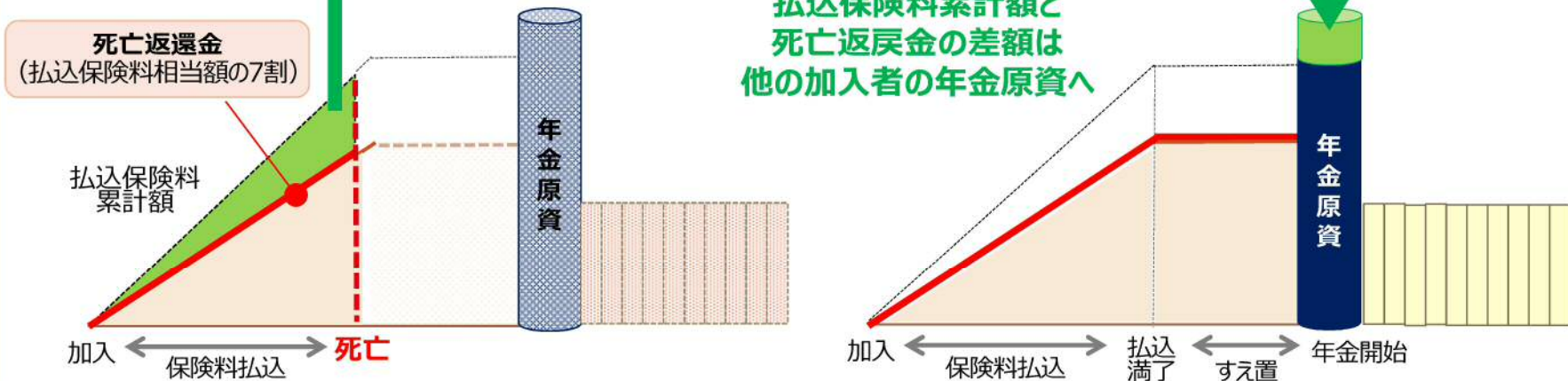
死亡保険の場合のイメージ



トンチン保険の場合のイメージ



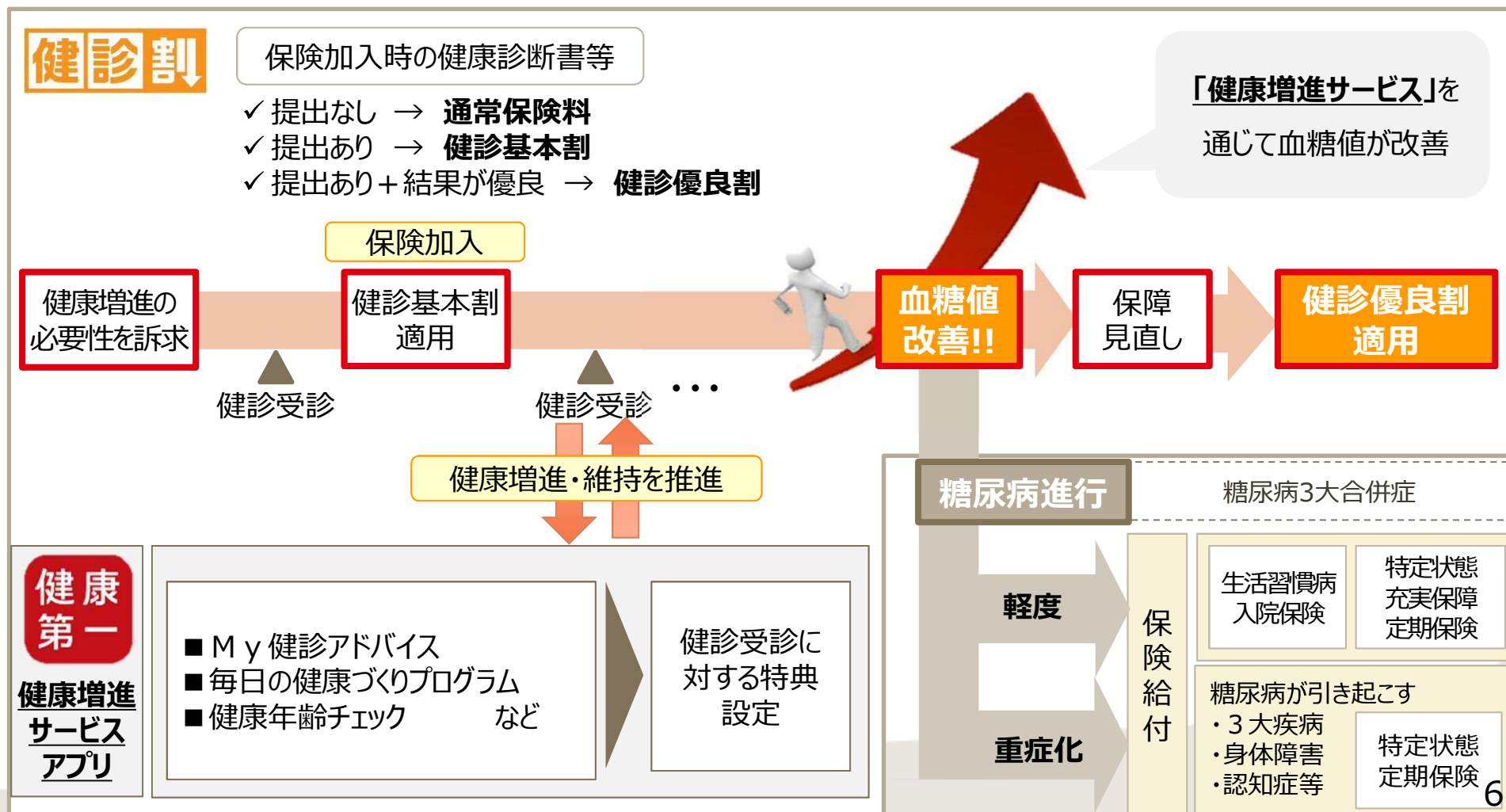
<イメージ>



健康寿命延伸およびQOL向上を支援する保険商品

- 第一生命では2018年3月より「健康診断割引特約」（健診割）の提供を開始
- 健康診断書の受診・診断書提出という「行動」に対して保険料を割り引くことで、生活習慣の改善を促進し、重症化を予防、ひいては健康寿命延伸や社会保障給付費の抑制にも貢献

<イメージ>



「健康第一」アプリ（健康増進サービス）

- 2017年3月に健康増進アプリ「健康第一」の提供を開始（2018年10月時点のダウンロード数は100万超）
- 第一生命ホールディングスの100%子会社「株式会社QOLeAD」を通じて、グループ外の企業・団体に対しても健康増進サービスを提供（第1弾：2019年1月よりかんぽ生命（予定））
- 健康長寿社会の実現に向けたヘルスケアプラットフォームの構築を目指す

＜「健康第一」アプリの主な機能例＞

検診結果を読み取るだけで
健康年齢や健康アドバイスを表示

糖尿病予防メニューなど
二次予防メニューが毎日閲覧可能

喫煙 飲酒

Before

同じ年齢・性別の人と比較したあなたのリスクは？

健康状態や生活習慣から
将来の発症リスクをかんたんチェック

After

運動 正しい食生活

リスクを知り、生活習慣を
見直すことで未来が変わる！

＜グループ外へのサービス提供＞

QOLeAD

第一生命

ネオファースト生命

INSURANCE

かんぽ生命

.....

2018.6設立、2018.9事業開始

（事業内容）ヘルスケア・シニア領域でのサービス提供、サービス受託開発・運用等

高齢社会に対応した手続・サービス

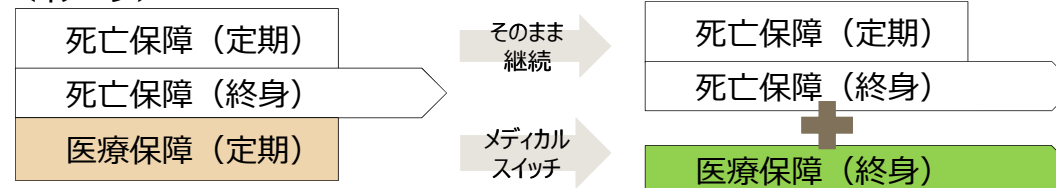
- 第一生命では、今後ますます高齢のお客さまが増加することを念頭に、加入時の利便性向上や保険金・給付金請求手続の簡便化、確実な給付のためのサポート体制の構築など、手続・サービスを適宜改善

告知・診査不要の医療保障見直し制度

- 健康状態にかかわらず、既存の医療保険を最新の終身医療保険に見直し
 - ※ 所定の医療保険への加入者が利用可能な保障見直し制度
 - ※ 現在入院中の場合など、一部利用できない場合あり

メディカルスイッチ
(医療保障変更制度)

<イメージ>



契約内容ご案内制度

- 契約者から事前同意を得たうえで、被保険者、受取人等の契約関係者からの問い合わせに迅速に回答
- また、必要に応じて手続に関する重要な情報を第一生命より案内

<以下のような事案への対応を想定>

- ✓ 受取人が保障内容を認識していないため、保険金の請求手続が行われない場合
- ✓ 長期不在・入院・自然災害などにより、契約者へ契約維持に関する案内ができない場合
- ✓ 意思能力喪失・認知症などにより、契約者へ手続に関する案内ができない場合

高齢社会に対応した手続・サービス

代理請求制度、代筆制度

- 事情により保険金等の請求や請求書への記入ができないときに備え、代理請求制度や代筆制度を準備
 - ＜指定代理請求制度＞
 - ・入院給付金等は、通常は被保険者本人からの請求が必要であるところ、被保険者に意思能力がない場合や、保険金などを請求できない特別な事情があるとき、契約者が予め指定した代理請求人が請求可能

生命保険信託「想いの定期便」

- 生命保険信託を活用した保険金受取りをサポートできるよう、みずほ信託銀行の信託商品「想いの定期便」を信託契約代理店として取次ぎ



成年後見制度サポート

- 認知症等で保険金等の請求が困難な場合、成年後見制度の利用をサポートするため、専門機関である公益社団法人成年後見センター・リーガルサポートと協定し、法的手続のサポートを行える司法書士を紹介



高齢社会に対応した手続・サービス

保険金クイックお受取サービス

- 保険金をより早くお受け取りいただくことでご遺族のお役に立てるよう、当日中に受け取れるサービスを用意
- 平日午前10:30までに、第一生命ほけんショップで手続された場合、死亡保険金の全額を手続当日中に受取可能

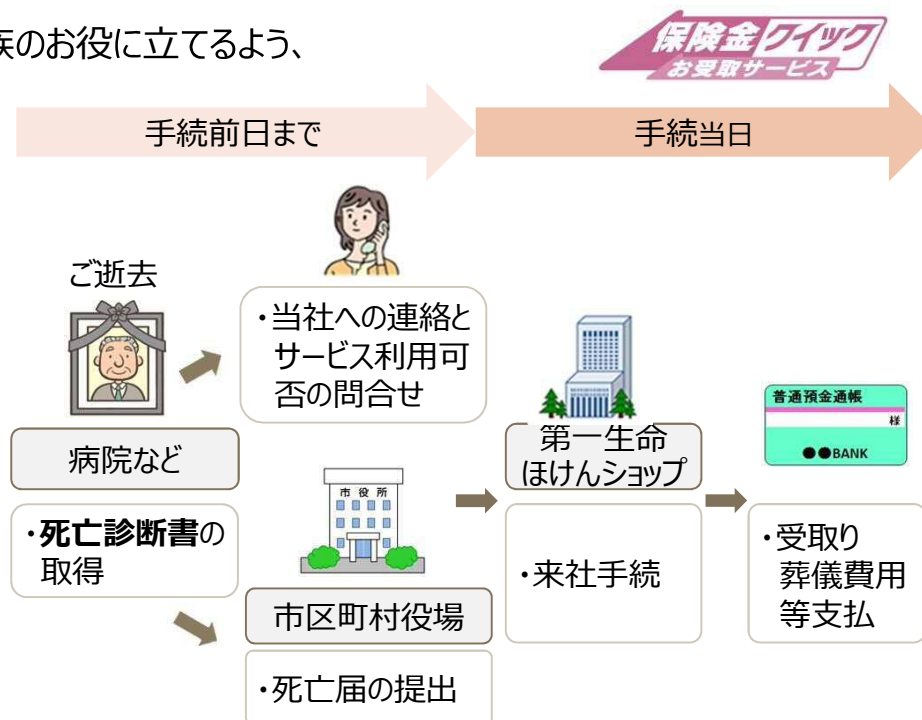
更に・・・

死亡保険金お届けサービス



ご葬儀費用やお布施など、現金での支払いが緊急に必要となった場合でも、最高500万円までの死亡保険金を現金でお届け

※利用にあたっては、契約内容、お亡くなりになられた状況など、所定の要件を満たしていることが必要



戸籍代行取得サービス

- 死亡保険金請求の際、戸籍謄（抄）本（以下「戸籍等」）の提出が必要となる場合があるが、加齢に伴う体調面の変化等により戸籍等の取得が困難な場合があることから、そのようなお客さまに代わり、当社と提携する行政書士が戸籍等を取得し、相続関係説明図を作成

健康・医療・育児・介護サービス（非金融事業者との連携）

- 高齢で介護等が必要なご家族がいらっしゃるお客さまにはそのご家族を支えるサポートとして、またお客さま本人の“セカンドライフをサポートするサービス”として提供
- 第一生命の契約者、被保険者およびそのご家族全員が利用可能

<主なサービスの例>

メディカルサポート

□ 健康・医療・育児・介護電話相談

- ✓ 看護師・保健師・助産師等の専門相談員による無料相談
- ✓ 24時間365日サポート

提供：(株)保健同人社



セカンドライフサポート

□ 「HOME ALSOKみまもりサポート」

- ✓ 離れて暮らす高齢の両親等を見守る緊急通報・電話相談サービス

提供：総合警備保障（株）

□ 「みまもりホットライン」

- ✓ 無線通信機を内蔵した「i ポット」の使用情報を離れて暮らすご家族にメールでお知らせするサービス

提供：象印マホービン（株）

□ 「終活相談サービス」

- ✓ 葬式に関する不安や心配事の相談、急に葬式を行うことになったときに承るサービス

提供：イオンライフ（株）

□ 「空き家管理サポート」紹介・取次ぎサービス

- ✓ 長期入院や介護施設への入所等で居住していない家を維持したい方に向けた空き家管理サービス

提供：総合警備保障（株）
大東建託パートナーズ（株）

□ 「おもいで整理」紹介・取次ぎサービス

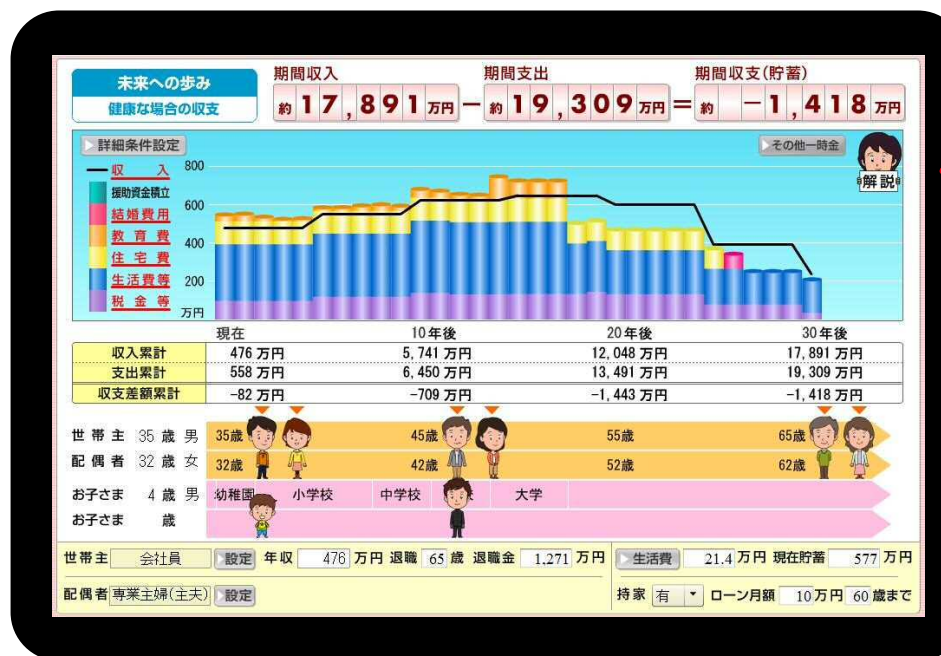
- ✓ 故人の部屋や遺品・おもいででの整理代行サービス

提供：ヤマトホームコンビニエンス（株）
キーパーズ（有）

お客さま向け情報提供ツール（生涯設計シミュレーション）

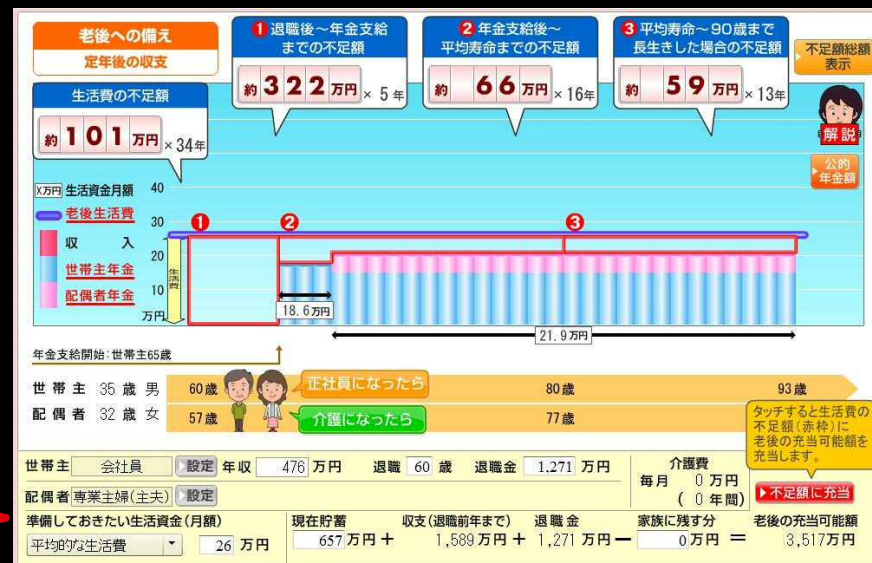
- 生涯設計シミュレーションツールを活用し、お客さま1人ひとりの状況や思いを踏まえた生涯収支を見える化
- 「定年後の収支」については、平均寿命以上に長生きした場合の収支も認識できる仕立て

①定年までの収支ver.



年収、退職年齢、退職金、生活費、貯蓄額、住宅ローン（あるいは家賃）など、お客さまの状況に合わせて任意の数値を入力（業種別・規模別等のモデル値も選択可）

②定年後の収支ver.



介護費、家族に残したい額、共働きをした場合の年金額等の表示も

お客さま向け情報提供ツール（生涯設計シミュレーション）

■生涯設計を行う際には、生活費、教育費、介護費等について詳細な設定を行うことも可能

<設定項目の例>

ライフイベント

生涯設計プラン

●将来のイベントを予想して、イベントのイラストを移動させてください。

結婚 出産 マイホーム マイカー 余暇活動 お子さまへの援助資金積立 親の介護資金準備

将来のイベント

世帯主	35歳	35歳	45歳	55歳	69歳	
配偶者	32歳	32歳	42歳	52歳	57歳	
お子さま	4歳	男	小学校	中学校	高校	大学
お子さま	歳					
お子さま	歳					

詳細条件

詳細条件設定画面

世帯主 <input type="radio"/> 平均推移モデル <input type="radio"/> 一定モデル <input type="button" value="確定設定"/>	配偶者 <input type="radio"/> 平均推移モデル <input type="radio"/> 一定モデル <input type="button" value="確定設定"/>	住宅ローンの団体信用生命保険 <input type="radio"/> 加入(万一对応) <input type="radio"/> 加入(万→3疾病に対応) <input type="radio"/> 非加入	がん・心臓疾患発症時の収入減少割合 <input type="radio"/> 100%無収入+100%無収入 <input type="radio"/> 100%無収入+30% <input type="radio"/> 30%+30% <input type="radio"/> 30%+30%
万のときの生活費 継続時の生活費の?割 <input type="button" value="確定設定"/>	ホームヘルパー費 <input type="radio"/> 未子高齢卒業者まで <input type="radio"/> 万一死亡は長寿い時点から 1年間	障害年金計算における想定等級 <input type="radio"/> 障害等級2級 <input type="radio"/> 障害等級3級 <input type="radio"/> 障害が著しい制限を受ける状態	お子さまへの援助資金積立 <input type="radio"/> 考慮する <input type="radio"/> 考慮しない 住宅購入援助資金: 7.43万円 学費援助資金: 3.70万円 定期貯蓄した額を毎年の支出に追加
万のときの居住形態 <input type="radio"/> 万のときの必要保障額計算に居住形態を含めたい <input type="radio"/> 含めたい <input type="radio"/> 含めたい	万のときの家族に預けたい資金 <input type="text" value="0"/> 万円	親の生活資金支援 将来支援: 年毎から 1年間 毎月 万円	

教育費（公立/私立、自宅/外）

教育費シミュレーション

コース別教育費

合計 約 1,015 万円

教育機関	費用 (万円)
幼稚園	100
小学校	192
中学校	144
高校	122
大学	455

私立 公立 公立 公立 私立系 自宅 自宅

文部科学省「平成24年度 子供の学習費調査」、「私立大学等の平成23年度入学者に係る学生給付金等調査結果について」、「平成22年度 国立大学の授業料、入学料及び検定料の調査結果について」、(財)日本学生支援機構「平成24年度 学生生活費調査」

生活費内訳費目

生活費内訳費目設定画面

※初期設定額は、総務省の全国消費実態調査に基づき、世帯人数と世帯年収により設定しています。

食費	56,623 円	光熱・水道	16,954 円
家具・家事用品	7,930 円	衣服類	9,517 円
保健医療	10,622 円	交通・通信	40,585 円
教養・娯楽	21,741 円	その他(交際費等)	49,976 円
		生活費	214,248 円

※生活費には、マイカー購入や余暇活動に掛かる費用、教育費や住宅費は含まれません。

介護費

介護費設定画面

初期費用の目安
必要と考えられる額 平均 9 万円
(※例) 生命保険文化センター「平成24年度 全国高齢者介護に関する全国実態調査」

毎月の費用の目安
在宅介護の場合 9.2万円/月
(内訳) 在宅サービス 2万円 (介護付介護老人ホーム) 15万円/月 (介護サービス) 9万円 (福祉サービス) 1.2万円
(※例) 生命保険文化センター「介護保険ガイド」(平成22年)

介護者の数
 0人 1人 2人

希望する介護形態
 在宅介護
 公的介護施設
 有料老人ホーム

介護想定期間
 歳から
 ※世帯主年齢

介護費 ※一人あたり
 初期費用 91 万円 毎月 9 万円

参考データ
 年代別人口に占める割合
 介護認定者の割合
 介護年数アンケート結果

お客さま向け情報提供ツール（社会保障制度・老後のケース）

- 公的保険を補完する役割を担う主体として、第一生命では、お客さまが、老後のマネープランを含めた生涯設計の重要性について認識いただけるよう、タブレット端末を用いて社会保障制度の説明や年金シミュレーション等を実施できるツールを活用

Touch!!

社会保障制度		
▶ 老後	▶ 死亡	▶ 障がい
▶ 病気・ケガ	▶ 介護	▶ 年金シミュレーション一覧
商品説明	生前贈与・信託	保険の知識
▶ 手術給付金・支払事由チェック	▶ 生前贈与シミュレーション	▶ 65歳満期の保険と10年満期の保険
▶ 指定代理請求特約	▶ 生命保険信託「想いの定期便」※	▶ 介護情報
		▶ 介護ビデオ

※「想いの定期便」はみずほ信託銀行の商品であり、第一生命はみずほ信託銀行の信託契約代理店として媒介します。

お客さま向け情報提供ツール（社会保障制度・老後のケース）

■「社会保障制度」の「老後」を選択した場合、職業別の老齢年金の違い、繰上げ・繰下げ支給、老齢年金支給額のシミュレーション、加給年金・振替加算等の情報について説明できる仕立て



Touch!!

加入者の職業によって老齢年金は異なります

加入者	第1号被保険者	第2号被保険者	第3号被保険者
	日本国内に住所のある20歳以上60歳未満の自営業者・学生・無職等	会社員・公務員などの厚生年金加入者	第2号被保険者に扶養されている20歳以上60歳未満の配偶者（個別の保険料の負担はありません）
支給年金	老齢基礎年金 (国民年金部分)	老齢厚生年金 老齢基礎年金 (国民年金部分)	老齢基礎年金 (国民年金部分)

- 公的年金から老後に支給される老齢基礎年金や老齢厚生年金を、総称して老齢年金と呼びます。
- 老齢年金は、第1号から第3号の被保険者区分によって、支給される年金の種類や金額が異なるので確認しておきましょう。

支給開始は原則65歳です

●支給開始年齢

原則	65歳から支給
繰上げ支給	60歳～64歳までの希望する年齢から、減額された年金を支給
繰下げ支給	66歳～70歳までの希望する年齢から、増額された年金を支給

●第2号被保険者のイメージ

- 老齢年金は原則65歳から支給され、繰上げ支給や繰下げ支給もできます。
- 第2号被保険者が60歳で定年退職し、繰上げ支給を受けない場合、65歳までの収入を別途確保する必要があるかもしれません。

加入期間10年以上^{※1}で支給されます

老齢基礎年金の支給要件	老齢厚生年金の支給要件
国民年金の保険料納付済期間と保険料免除期間等 [※]	厚生年金加入期間（1か月以上あれば上乗せ） 国民年金の保険料納付済期間と保険料免除期間等 [※]
10年以上	10年以上

- 自営業の場合、保険料滞納期間が長い方もいらっしゃいます。老齢基礎年金は、保険料納付済期間等が10年以上あれば、受け取れます。
- 老齢厚生年金は老齢基礎年金の支給要件を満たしていれば、厚生年金の加入期間が1か月であっても、その分の支給額が上乗せされます。

老齢年金支給額の例（月額）

例	会社員（保険料納付月数：480月）	保険料納付月数		
		360月	420月	480月
老齢厚生年金	13.1万円	4.9万円	5.8万円	6.6万円
老齢基礎年金		4.9万円	5.7万円	6.5万円
合計		9.8万円	11.5万円	13.1万円

- 老齢年金は、保険料納付月数が高いほど年金額が多くなり、老齢厚生年金は、現役時代の収入によっても年金額が異なります。
- 年金の見込額がどのくらいになるのかを確認することは、老後資金の準備を検討するうえで第一歩となります。

老後の生活費は意外とがかかります

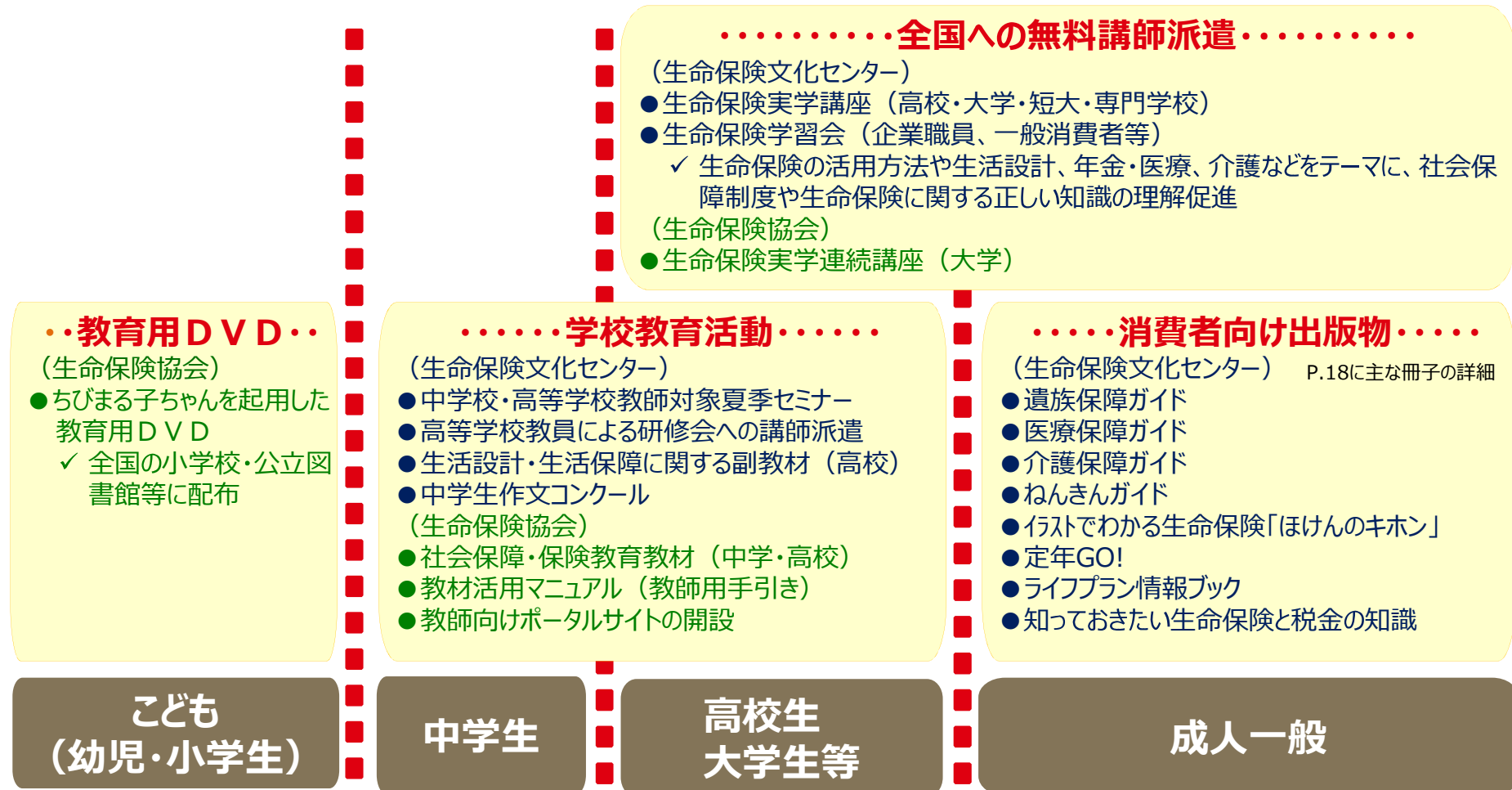
個人年金保険で備える！

老齢年金の支給額	月額 26.9万円
老後の生活費	月額 34.9万円

- 老後の平均生活費は夫婦で月額26.9万円といわれており、老齢年金だけでは十分にまかなえない可能性があります。
- 豊かな老後生活のために、不足分を個人年金保険などで準備しておけば安心です。
- 老後資金は時間をかけて積み立てるほうが月々の負担が少なくなるため、無理なく続けられるように早めの開始をおすすめします。

生命保険教育推進に係る取組み（全体像）

- (公財)生命保険文化センターや(一社)生命保険協会において、若年層を含めた各年代に対し、リテラシー向上に向けた啓発活動などを実施



※生活設計における保険の役割を体系的に習得できるよう、保険教育機会の拡充等に取り組んでいる。

※また、保険教育に関する生命保険業界の取組事例集を取りまとめるなど、自助努力の役割・重要性の理解という面での保険教育について、各社の自主的・積極的な取組みを支援している。

学校教育を通じたリテラシー向上への取り組み

- (一社)生命保険協会は、2016年4月に「保険教育推進に関する報告書－学校教育現場での保険教育機会の拡充に向けた提言－」を公表し、その後文部科学省より公表された学習指導要領案に意見を表明
- 2018年3月、新しい「中学校学習指導要領」、「高等学校学習指導要領」が公表され、社会保障について学ぶ際に、「民間保険」や「自助、共助及び公助が最も適切に組み合わせられるようにするにはどうすればいいか」についても併せて学習

(※) 中学校は2021年度より、高等学校は2022年度より、新しい学習指導要領を反映した教科書が使用される予定

<高等学校学習指導要領における記載の変更（一部抜粋）>

現行学習指導要領（～2021年度）

現代の経済社会の変容などに触れながら、市場経済の機能と限界、政府の役割と財政・租税、**金融**について理解を深めさせ、経済成長や景気変動と国民福祉の向上の関連について考察させる。また、雇用、労働問題、**社会保障**について理解を深めさせるとともに、個人や企業の経済活動における役割と責任について考察させる。

【解説 公民編】

「社会保障」については、疾病や出産、障害、加齢など様々な原因により発生する経済的な不安を取り除くなどして生活の安定を図り、人間として生活が保障される社会保障制度の意義や役割を理解させるとともに、現状と課題などを、医療、介護、年金などの保険制度においてみられる諸課題を通して理解させる。またその際、**少子高齢化の進行や、財政との関連、保険料の負担などとの関係について考察させる。**

新学習指導要領（2022年度～）

ア 次のような知識を身に付けること。
 (リ)職業選択、雇用と労働問題、財政及び租税の役割、少子**高齢社会における社会保障の充実・安定化**、市場経済の機能と限界、**金融の働き**、経済のグローバル化と相互依存関係の深まり（国際社会における貧困や格差の問題を含む。）などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること

【解説 公民編】

また、例えば、社会保障制度の在り方をめぐっては高福祉・高負担か、低福祉・低負担かなどの点から考えなければならないこと、社会保障制度を持続可能なものにするには将来の世代の受益と負担を考慮しなければならないこと、生活上直面する様々なリスクに対しては、自分でそれに備えたり、対処したりするだけでなく、近隣住民などと互いに助け合うことや行政による対応が欠かせないことなどの観点から、**貯蓄や民間保険などにも触れ、自助、共助及び公助が最も適切に組み合わせられるようにするにはどうすればよいか多面的・多角的に考察、構想し、表現できるようにすることが考えられる。**

消費者向け出版物を通じたリテラシー向上への取り組み

■(公財)生命保険文化センターは、公正・中立な立場で生活設計や生命保険に関する情報提供を実施

定年GO! – 40代・50代で考えるセカンドライフ –



<概要>

- あなたのセカンドライフ展望図
- セカンドライフの自助努力目標額
- セカンドライフの税金と資産運用
- セカンドライフの健康保険と介護保険
- セカンドライフの生命保険活用法
- 定年退職前後の手續

ライフプラン情報ブック – データで考える生活設計 –



<概要>

- 多様化するライフスタイル
- ライフイベント(結婚、出産・育児、教育、住宅)
- リスクへの備え(万一、病気・ケガ、老後、介護)
- 生活の安定、財産を守る(仕事、家計・資産形成、相続)
- より充実した生活(余暇、健康)

ねんきんガイド – 今から考える老後保障 –



<概要>

- 老後の生活費
- 公的年金
 - ✓ 受給資格、老齢年金、厚生年金
 - ✓ 厚生年金と雇用保険
 - ✓ 離婚と年金分割
 - ✓ 遺族年金、将来の年金を知る
- 私的年金
 - ✓ 公的年金を補完

介護保障ガイド – これからの介護リスクに備えるために –



<概要>

- 介護のリスクと介護保障
- 公的介護保険
 - ✓ 仕組み、利用のポイント
 - ✓ 在宅サービス、地域密着型サービス、施設型サービス
 - ✓ サービスの基本単価
- 生命保険会社の介護保険
 - ✓ 一般的な給付要件と商品タイプ

リテラシー向上への取組みとして「自助の日」創設（5月28日）

- 金融リテラシー等の教育機会を継続的に提供する契機として、記念日「自助の日」を創設し、業界が一体となって取り組める仕組みを構築

例：「自助の日」記念セミナー・イベント等を展開

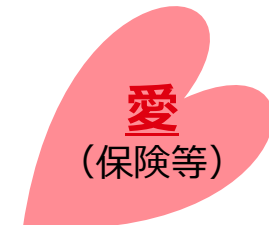
ライフイベントへの対応
「資産形成・借入れ等のリテラシー」

自助の基本を維持するためのプリベンション
「病気予防・防災等のリテラシー」

生きるうえでのリスクに対するプロテクション
「保険・リスクに関するリテラシー」

□ 5月28日（イツツバ（5つ葉）の語呂）

✓ 5つの葉には以下の意味が込められている



※カッコ内はセミナー・イベント等のテーマ例

人生100年時代、一人ひとりの異なる人生における
適切な自助を推進（⇒資産寿命・健康寿命延伸へ）